

介護と観光を結び

雇用創出

日本トラベルヘルパー協会



リフト付きのバスを使用した団体旅行も可能



篠塚 恭一 理事長

「ケアスキルを持った添乗員と考えるべき。旅行には時間的・経済的・体力的な余裕が必要なために、旅行業界の一大マーケットはアクティブシニア世代です。しかしその同世代でも健康に不安を抱え、サポートがないと外出できない方々もいます。トラベルヘルパーはそうした方々の外出・旅行をサポートする人材です。地域包括ケアは30分で駆けつけられる日常生活圏域で完結してしまい、そこで30分を越える日常生活圏域、たとえば隣町の孫の所に行く、あるいはさらにその先、故郷の墓参りに行くというような場合までを民間のサービスで支えるのがトラベルヘルパーです。」

つまり介護保険制度がカバーできない範囲で、ケアスキルを生かした産業が介護旅行やトラベルケアまで、要望に合わせて利用できます。」

「継続して養成講座ではどのようなことを学ぶのか。」「トラベルヘルパーに必要能力は『全てに備える』こと。トラベルヘルパーは旅行で使う交通機関やホテルと利用者の間に入る通訳のような存在。講座では自宅学習のほかに実習をします。準2級では日帰りのコースを設定、交通機関や人混み、砂利道などを体験します。2級になると、日帰りや2泊3日などの条件を設定して旅行計画を立てて実践します。実習を通してフランニング、アクセスメントを学びます。」

この3つがあれば、数時間のお出かけから泊まりがけの旅行、1人から団体まで可能です。トラベルヘルパーはフランニングやガイド、旅行中のケアまで、要望に合わせて利用できます。」

「利用者の平均年齢は76歳、リピーター率は7割ほどです。介護旅行を知るきっかけの大半は、ご家族や後見人です。また旅行に行きたいという目標ができ、リハビリに意欲的になれたという感想をいただきます。リピーターの方で、要介護度が5から3になった方もいます。」

またモチベーションと効果があります。旅先ではいろいろなことが起きます。気温や湿度の変化、バリアフリー化されていない環境に対応することで、五感にスイッチが入ります。安定した環境の施設にいたっただけでは、体のセンサーは使う必要がありません。」

最後に協会の今後の方針についてうかがった。「今後もトラベルヘルパーのノウハウを、より多くの旅行会社や自治体に広めていきます。介護と観光を結び付けることで地域経済の活性化の可能性もあります。そして全国にトラベルヘルパーセンターを設置し、そこを拠点に地域の要介護者の外出支援や情報提供をしていきます。すでに首都圏を中心に10か所のセンターができています。」

2013. 7. 31
日本シニアリビング新聞

【協会概要】
NPO法人日本トラベルヘルパー協会
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-19-13
トップビル並木ビル10階 / ☎03・6415・6608 / 協会HP
<http://www.travelhelper.jp/>